

第 11 回  
室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会  
会議録

開催日時 令和 4 年 9 月 1 日(水) 15:00～

開催場所 室蘭市防災センター 研修ホール

出席者 委員：吉田委員長、森川副委員長、菊地委員、菊池委員、  
安部委員、齊藤委員、鶴田委員、山内委員、塩越委員  
事務局：佐野部長、北川課長、田所主幹、櫻井課長補佐、佐藤主査、  
谷口主任、古道主事、内田主事

議 題 1. ごみ処理・リサイクル事業のあり方検討（中間まとめ）  
2. 室蘭市食品ロス削減推進計画  
3. 次回以降の検討委員会について

傍 聴 者 報道関係者 2 名

## 1. 報告事項

---

### 委員改選について

今回までを一区切りとして委員を改選し、残りの課題解決に向け検討を進める。

## 2. 資料、参考資料の概要

---

### 資料1「ごみ処理・リサイクル事業のあり方検討委員会」中間まとめ

検討委員会の概要や今回の第11回までの検討内容について中間まとめとして報告した。

#### ①あり方検討の経緯

- ・室蘭市行政改革プランに基づき、ごみ処理・リサイクル事業の課題解決に向けて本検討委員会を設置した

#### ②検討委員会

- ・委員やこれまでの開催年月日、検討内容について掲載

#### ③ごみ処理・リサイクル事業の課題

- ・年々ごみは減少する一方でごみ処理費用は増加傾向にあること
- ・ごみの減量化やリサイクルが目標値と乖離していること
- ・収集作業員確保に懸念があり、将来的には現体制を維持できなくなる恐れがあること

#### ④課題解決に向けた取り組み

各分野別で、これまでの意見、取組の方向性、実現した内容について報告した。

- ・周知啓発では、LINEによる自動分別案内開始や、出前講座を随時実施した
- ・生ごみ減量では、R2.11 庁内連絡会議を設置しフードドライブを実施しているほか、R4.5 生ごみ処理機の購入助成開始、R4 年度中に食品ロス削減推進計画の策定を予定
- ・古紙類では、回収団体不在地域の町内会へ参加を呼びかけたが実施には至らなかった
- ・小型家電回収では、回収ボックスの増設、リネットジャパンとの協定締結や、臨時回収を実施した
- ・事業系ごみ減量については、次回以降も引き続き検討を行う
- ・収集地区再編では、R4.4 収集地区再編を実施し収集運搬作業を平準化した
- ・収集頻度の見直しでは、R3.4 危険ごみの分別収集開始、燃やせるごみの祝日収集廃止、R4.4 資源物の隔週回収への変更を実施した
- ・ごみステーション集約では、R4.4 に設置要綱を制定、R4 年度中に集約方針を策定予定
- ・プラスチック製容器包装では、R4.3 末で分別収集を廃止した
- ・ごみ処理手数料の適正化では、R4.4 よりごみ処理手数料を改定したほか、指定ごみ袋等の仕様を変更した

### 資料2-1「室蘭市食品ロス削減推進計画【概要版】」

食品ロス削減推進計画の概要を資料のとおりまとめた。

### 資料2-2「室蘭市食品ロス削減推進計画」

食品ロス削減を推進するため、現状や課題、目標についてまとめ計画の素案を作成した

- ・食品ロスの削減の推進に関する法律に基づく、市町村食品ロス削減推進計画と位置付ける
- ・R3 年度には家庭系で2,434 トン、事業系で1,077 トンの食品ロスが発生したと推計
- ・家庭系及び事業系食品ロスの発生要因及び削減に向けた課題を整理
- ・国や道の目標設定を踏まえ、2030 年度までに2017 年度比で食品ロス20%削減を目標とする
- ・食品ロス削減に向けた基本施策及びその取組内容、各主体の役割や進行管理を掲載

### 3. 提案された意見・方向性

---

#### ごみについて

- ・指定ごみ袋が共通の色となったが、問題はなかったか  
⇒収集の際に必ず車を降りて確認する必要性が生じた  
⇒経費削減効果もあったと市民に周知すべきでは
  - ・不適正排出されたごみは開封して中身を確認していいのか  
⇒開封は望ましくない。開封が必要な場合は市に連絡を
  - ・ごみステーション看板に注意喚起の文書を追加しては
  - ・ごみ出しのルールブックのようなものを作成し公開できないか
  - ・室蘭市と近隣の自治体で危険ごみの名称を統一できないか
- 吉田 委員長  
事務局  
吉田 委員長  
森川 副委員長  
事務局  
森川 副委員長  
吉田 委員長  
齊藤 委員

#### 地区再編について

- ・地区再編の目的に作業負担の平準化があったかどうか  
⇒ある程度平準化されたと聞いている
  - ・市民には作業負担の平準化のための地区再編と伝えるべき
- 吉田 委員長  
齊藤 委員  
吉田 委員長

#### ごみステーション集約について

- ・ごみステーションの集約方針はどこまで決める予定なのか  
⇒集約による効果や市の考えを定め、理解できる形で示したい
  - ・集約の基準にはその地域にあった基準も別で必要では
  - ・ごみ出し弱者対策は考えているのか  
⇒集約とセットで考えているが、単に実施しただけでは片方の効果が薄れてしまう可能性があるため検討が必要と考える
- 森川 副委員長  
事務局  
森川 副委員長  
森川 副委員長  
事務局

#### 食品ロス削減について

- ・食品ロス発生量はどのように推計したのか  
⇒家庭系は組成調査結果から、事業系は経済センサスに基づく室蘭市の業種割合から発生量を推計した  
⇒事業系の推計値や目標値は少し甘いのではないか
  - ・フードドライブをやっている側からの感想は何か  
⇒大部分が高齢者だが、若い世代も一部参加している  
今後は若い世代の人に参加してもらえる取組が必要
  - ・市ホームページにフードドライブの掲載はあるのか  
⇒これまでの結果などを掲載している
  - ・食品ロスについて男性は関心が薄いと感じる
  - ・通年で活動している団体をもっと PR できないか
- 安部 委員  
事務局  
安部 委員  
吉田 委員長  
安部 委員  
吉田 委員長  
事務局  
森川 副委員長  
齊藤 委員

## 4. 議事録

---

### 開会

(省略)

### 議題

#### (1) 「ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会」中間まとめについて

事務局より説明

資料1 「ごみ処理・リサイクル事業のあり方検討委員会」中間まとめについて

<吉田委員長>

ありがとうございました。

今年の4月にはごみ収集に関する多くの変化がありました。その中で今話していただいた実現しているものや、まだ検討段階のものもあります。ただ今、ご説明していただきましたことについて、気になる点や皆さんの周りではどうなっているのか、ご感想やご意見、ご質問のある方は発言をお願いします。

私から、資料の1番目にある収集地区再編について、収集日が変わったことでかなり混乱があったと思います。私の近所でも、ごみの排出日を間違えて出しているのを見かけたことがありましたが、1ヶ月くらいで適正な日に排出されるようになったようです。他にも、可燃と不燃の指定ごみ袋の色が同じになりましたが、ごみの分別や出し方についても問題はありませんでしたか。

<事務局>

収集作業員の方から聞いているのは、今まではごみの分別は色で明確に分かれていたので遠くから見ても可燃か不燃か判別できたのが、白い袋になったことで、一度車から降りて近くに行って袋を持ち上げてみないと、中身が可燃なのか不燃なのか判別できないと聞いています。市民からは指定ごみ袋の色が共通になったため、可燃と不燃を混ぜて出してもいいのかというお問い合わせがありました。

<吉田委員長>

資料の説明の際にあったとおり、これまではごみの排出量などの偏りがありこれを平準化させるため収集日の変更がありましたが、収集事業者としては負担の軽減などはどのような状況でしょうか。

<齋藤委員>

収集事業者の立場から言いますと、これまでの燃やせるごみの量が月木で65%だったのが48%くらいになり、ある程度平準化されたと感じています。以前までは月木は4台で収集していましたが、今では3台くらいで間に合うようになりました。

新しいごみ袋について、白色で発色が強いため中身がよく見えず、中身を開けないとわからないことがあると聞いています。先ほど、ごみ処理施設での火事の話もありましたが、登別と室蘭では危険ごみの名称が違います。登別市では有害ごみという名前、室蘭市では危険ごみという名前です。テレビを見ていると若い人たちは、安い携帯式の扇風機を使用して、すぐ捨てています。このようなものが火事の原因になっていると思います。室蘭市と登別市で統一した名称にしなければ市民が混乱してしまうと思います。

収集地区の再編後には、市民の新聞への投稿がしばらく続き、批判的な意見も多く目につきました。これについても、室蘭市から市民に対して収集作業の負担を平準化するために収集日の変更があったとしっかり市民へ伝える必要があったと思います。

<吉田委員長>

ありがとうございました。  
森川副委員長、お願いします。

<森川副委員長>

指定ごみ袋の件について、町会内でも袋が新しくなることについて多くの議論や質問がありました。オレンジ色の燃やせるごみ袋に燃やせないごみを入れて出したり、その逆にグリーン色の燃やせないごみ袋に燃やせるごみを入れて出してもいいのかといった質問が、会員以外にも多くの町会から私に話を投げかけられました。

私たちも環境課へ相談していますが、私の町内会でとあるごみステーションに数ヶ月前からずっと収集されないごみがあり、原因は分別されていないからというものでした。このごみを出した本人が故意なのか分別基準を知らないだけなのかわかりませんが、ほかにも差額券が貼られていないとか、他の町会でもありました。このような場合に、ごみステーションの管理者で対応してくださいと言われてしまいますと、まるで押し付けられているように感じてしまうという厳しい意見もありました。私の町内会では、出した人がわからず、トラブルになっていることから、町内会費で差額券を購入し、適切に分別した上で収集してもらうことにしました。はたして、この対応が正しいことなのか、個人の問題についても町内会費で対応しなければいけないのか疑問があり、同じような内容の話が室蘭民報にも投稿されていました。

つい先日の室蘭民報には、ルールを知らないのか故意なのか、排出者も住民なのか観光客なのかまったくわからないごみに対して、勝手に中身を確認していいものなのかという投稿がありました。中には個人情報が入っているかもしれないし、見られたくないものも入っているかもしれません。また、これは行き過ぎた行為になってしまうのか非常に難しい問題だと感じています。私としては、町会や市民が確認するべきではないと考えていますが、改善策として、ごみステーションにごみ収集日の看板を貼っていますが、これにもう少し細かい説明を記述してみてもどうかと考えています。場合により管理者がごみの中身を調べることがありますと市民に周知すると共に、決して悪意はないという点も付け加えるべきと考えています。

<菊池委員>

私が使用しているごみステーションに白い袋が変わってから、赤い啓発シールが貼られて回収されないごみがありました。お隣の方が気になって、班長と一緒に開封したところ、燃やせるごみに電池が2つ入っていました。電池を取り除きましたが、次回の収集日には収集されなかったの、電池は分別しましたとメモを書いたところ、やっとその次の収集にはそのごみは収集されました。こういったことは色が白くなり、中身が見えづらくなったために起きてしまったのでしょうか。

<事務局>

町会の皆様を始め、4月にごみ袋や様々なことが変わったことでご苦労されていると伺っています。先ほどのごみの不適正な排出につきましても、ごみステーションを管理されている方で対応されているとのことでしたが、市ではまず第一にごみを出された方がしっかりと自身で啓発シールの貼られている内容に沿って出し直していただくべきだと考えています。

その中で、先ほどの話にありました中身を開けることについて、他の町会からもお問い合わせをいただいております。4月から特に多いこともあり、また心配の声もいただいておりますので、市の法規担当と相談を行いました。排出されているごみは、ごみとして出されたものではありませんが、中身を見られない権利というプライバシーの侵害にあたりますので、基本的には開けないことが望ましいと伺っています。どうしても中身を開ける必要がある場合は、市の職員であれば市の業務の一環として対応可能なのでご連絡いただきたいと思います。

また、どうしても管理者側で分別されていない、残されているごみを開ける場合には、事

前にごみ袋を開ける場合があることを周辺の住民へしっかりと周知をしていただき、個人情報の取扱いについても内部できちんと決めていただいた上で対応していただきたいと考えています。

<森川副委員長>

町会や管理者はけっこう苦勞しています。

先ほどの資料の4ページ目の③、今年度中にごみステーション集約方針を策定とありますがどの程度まで決める予定なのか教えてください。

<事務局>

ごみステーションの集約方針については、これまでご説明をしてきましたとおり、本市は他市と比べてごみステーションの数が非常に多く、効率が悪くなっています。かといって、市内に6100箇所あまりあるごみステーションを集約すると言っても、簡単に協力を得られるとは思いません。今後、集約によって最終的に市としてどうしたいのか内容をしっかり理解できるようなものを作っていきたいと考えています。

併せて、市内のごみステーションについては鉄かごのような複数世帯が使用しているものから軒先など様々なものがありますので、それらをどのように集約するのか、わかりやすくお伝えしたいと考えています。また、単純に集約すれば良くなるわけではないと考えており、効率化の観点や収集ルートの変更なども併せて実施しないとなかなか効果は出てこないと考えています。効果的な集約をするためにはどう進めるべきなのか、目指す姿がどのようなものなのかについてお伝えしていきたいと考えております。

<森川副委員長>

集約は大事なことですが、地域によって実現は難しいと思います。基本的な基準は必要ですが、その地域にあった基準も別で必要だと思います。

また、第1回から話をしていますが集約と併せてごみ出し弱者対策についてもかなり難しい問題を抱えています。本当に弱者なのか、出しにくいけど遠慮している人や遠いごみステーションまで持って行かなければいけないとか、どのような基準を設定するのか、うまく解決していかないと混乱を招いてしまいます。

<事務局>

弱者対策についても集約とセットで考えなければならないと考えています。

一方で、集約と弱者対策による個別の対応というのは全く正反対の性質であり、単純にどちらも実施しただけでは、どちらかの効果が損なわれてしまうと考えています。そのため、難しい課題ではありますが、両方の効果が損なわれないように進めたいと考えています。

弱者対策では、町内会にご協力をいただいたり、ボランティアを募るなどの全国の優良事例を参考にして検討していきます。

<吉田委員長>

この話は令和4年度の検討課題であり、いろいろ議論が必要だと考えています。メリットとデメリットのトレードオフなので、バランスをどのように取るのか引き続き検討していただきたいと思います。

指定ごみ袋の色を白色にしたデメリットの話が多くありましたが、その一方で、経費削減に繋がっていると思います。齋藤委員から、収集日を変えることでごみ収集の負担を平準化できたにも関わらず、それを知らない市民からはサービスの低下だと感じ取られているところがありました。市民になぜ収集地区の再編や収集日の変更をしなければいけないか伝わっていないことが原因だと考えられます。市民にも負担してもらっている部分もありますが、それにより市にどれだけのメリットがあったのか、財政的な部分など市から発信していただいて、サービスの低下だけではないと感じられる様にしていきたいと思います。

差額券が不足していた話もなくなり、1年も経てば古い指定ごみ袋もなくなるのではないかと考えています。こういったことをまとめたルールブックみたいなものを市のホームページなどに掲載していただいて、ルールを確認しやすい環境を用意してもらいたいと思います。

また、ごみ袋の開封についてはプライバシーの問題もありますので、基本的に開けてはだめとどこかで周知していただきたいと思います。4月からプラスチック製容器包装収集が廃止となり、手数料の適正化による値上げもありましたが、ごみの全体排出量は増えているものと思っていました。

<塩越委員>

ごみと収集日についてですが、資源物の収集が隔週になり5週ある月が来ると収集の週がずれていきます。1週間ずつずれるものですから、皆さんの周知に苦勞して、苦情がでてきてしまいます。毎月町内会の回覧で、毎月危険物はこの日ですとお知らせしています。そのおかげか、最近はちょっと落ち着いてきたかなと思います。

ごみ袋の件ですが、手数料が上がったことが原因か、これまで週に2回、20リットルと30リットルで出されていたのが、週に1回に減り40リットルのごみ袋で出されているのをよく見かけるようになりました。

また、ごみ袋は縛らないといけないのですが、紐を使って縛って出す人が増えたように感じます。また、そのようにして出されて収集されなかった場合にどのように対応するのか町会で話し合い、1週間後に確認してもまだ残っている場合はごみに回収されない理由を書いてお知らせするようにしました。皆さん出し方のルールがわからないことが結構あったようで、かなりの件数がありました。

<吉田委員長>

情報は0か1なので、聞けばわかるのですが知らない方も多くいます。広報紙も必ずしも読んでいるわけではないので、様々な媒体を通して周知していただくようにしてもらいたいと思います。

引き続きまして議題2「食品ロス削減推進計画概要」についてお願いします。

## (2)「食ロス削減推進計画概要」について

事務局より説明

資料2-1 「室蘭市食品ロス削減推進計画【概要版】」

資料2-2 「室蘭市食品ロス削減推進計画」

<吉田委員長>

ありがとうございました。

安部委員からご質問があるようですのでお願いします。

<安部委員>

食品ロスの発生量について、家庭系は2,434トン、事業系は1,077トンと推計されるとのことでしたが、私が聞いたところでは、食品ロスが家庭系と事業系で同程度の量が排出されていると聞いています。これは全国平均であり、室蘭市に合わせて推計した結果がこれだと思いますが、どのような方法で推計したのか聞きたいと思います。

<事務局>

食品ロス発生量の推計値は家庭系と事業系で推計方法が異なっています。家庭系につきましては、平成30年度に実施した組成調査の結果から推計しています。一方で、事業系については、農林水産省が調査した業種別の食品ロス発生量が示されており、これに経済センサスによる室蘭市の業種割合を当てはめて事業系の食品ロス排出量を推計しています。

<吉田委員長>

補足させていただくと、平成30年度の組成調査で得られた燃やせるごみに含まれる食品ロスは18%という数字ですが、大都市部だともっと低いところもあります。調査結果というのは振れ幅のあるものであり、1回だけの調査結果であることから、これはあくまで目安ということで考えていただきたいと思います。

目標としては8年で食品ロスを20%減らす目標。毎年2%位ずつ減らして8年で皆さんの家庭からフードロスをできる限りなくしましょうという国や道と同じ目標となっています。

安部委員も取り組まれているというフードドライブについて、各家庭にある食品とかお菓子とか調味料を持ち寄る取組ですが、持込できるのか、本当に要らないものなのか判断が難しいと考えています。この点について、実際に活動されている側からはどのように感じているのでしょうか。

<安部委員>

先ほどの質問に付け加えての意見になりますが、事業系の食品ロス発生量は少ないという判断をされていると思いますが、この削減目標値も少ないのであれば、食品ロスを減らそうという取組もあまり起きなくなってしまうと思います。あくまで推計しかできないわけではありますが、この推計値と目標値は少し甘いのではないかと思います。

フードドライブ運動を1年半くらいやっていますが、フードドライブ運動を告知して食料品を提供してもらえる方というのは、大部分が新聞を見て知った高齢者です。そういう方々は往々にして普段から節約しながら生活をしているため、中々自身のところからそのような余ってしまう食料品は出にくいようです。フードドライブは、現実的に皆さんができることという発想で、子供たちの貧困や、困窮者に手を差し伸べるという発想が根付かず福祉まで話がいけないことが大きな課題であり、これをどのように乗り越えるのかが課題になっています。そのため、町内会や日中に人のいるところだけでなく、若い世代にも話をするべきだと考えています。

いい兆しもありまして、子供がいらっしゃる方とか、30代とか20代とかの若い世代が、幸町にある事務所まで食品が集まったので持ってきていただいています。フードドライブ運動を知った若い世代で動いている人も出てきています。若い世代に声をかけて共生する仕組みを作っていきたいと思っています。

<吉田委員長>

私自身もごみの事を研究していますが、昨年までフードドライブについてはあまり知りませんでした。大学の学生も恐らく、大部分が知らないと思います。

一般的にフードドライブと言われてもイメージがつきにくく、またどんなものは提供できるのかもわかりづらいと思います。食品を提供してもらったが賞味期限がぎりぎり、気づいたら期限が切れておりフードロスとしてごみになってしまうこともあると思います。フードドライブのシナリオをしっかりと検討してもらおうと共に、市の方でもPRをしていただくようお願いしたいと思います。市のホームページにもフードドライブについて掲載はあるのでしょうか。

<事務局>

市のホームページにはこれまでの実施について結果などを掲載しております。今年の10月にも実施する予定ですので、その結果なども掲載する予定です。

<吉田委員長>

ごみの割合としてもフードロスは大きいので、ごみ減量に関連付けて市のホームページでもPRしていただきたいと思います。



<森川副委員長>

漠然とした質問ですが、概要の3ページのところで基本施策に学校に対する取り組みや消費者団体へお願いしていくとあり、アンケートなども取っているようですが、今の時代で男女の話はあまりしたくないのですが、こういう食品ロスについては女性の方が関心が高く、男性は関心が低いのではないかと考えています。男性は外食や宴会後に持ち帰る意識があまりないと思います。昔は宴会で余ったらタッパーとかで持ち帰ることもあったようですが、最近では食品衛生上の懸念から持ち帰りは少なくなっていると思います。以前、洞爺湖環境サミットが開かれた際には、タッパーに入れて持ち帰るという意識が高まったと感じました。男性向けの啓発が必要だと感じていますし、町会としても食品ロス削減に向けて協力していきたいと思っています。

<吉田委員長>

ご意見ということでしたが、本当に身に包まされる話で、私も家庭のストックされている食料については妻に任せっきりですので、男性向けのPRも検討していただきたいと思っています。

<齋藤委員>

最近の人はほとんど家で自炊していないと思います。また、販売事業者としても売れ残ると赤字になりますので何とか残らないよう安く売り、これを買って持ち帰り食べればいいのですが、余ると家庭ごみになってしまいます。

消費者協会や社会福祉協議会など通年でフードドライブをやっている団体もありますので、そういったところのPRをもっとするべきだと思います。市民も社会福祉に対していい考えを持っている方も多いと思いますので、しっかりとやってもらうようお願いします。

<事務局>

フードドライブを年間通じてできれば最善だとは思いますが、集めた食料を管理したり、運搬や受け入れる側も人手が足りていないなどの問題があり、現状では中々通年での実施は困難になっています。このような管理や受け入れ側の体制も関係団体と今後も協議を続け、体制の構築に向けて対応していきたいと考えています。

<安部委員>

概要の3ページ目の7(2)について、再生使用および再生利用の推進とありますが、どういったことを考えているのでしょうか。フードバンクへの支援とありますが、広報で通年で取り組んでいる団体を取り上げていただきたいと思っています。

また、9の推進体制及び進行管理について、どのようなかたちでいつから始めるのか案があるのであれば教えていただきたいと思っています。コープやスーパーなどの企業との話し合いも必要になると感じています。

<事務局>

フードバンク活動のPRについてですが、室蘭市で活動されている団体に対して、話をしながら必要に応じて市ホームページなどで周知ができないか検討したいと考えております。

計画についてはこれから詳細を決めていくため、具体的な話はまだできませんが、スーパーなどの企業とはフードドライブなどの食品ロス削減について協議を行っておりますので、この計画が成立しましたら改めて進めたいと考えています。また、必要に応じて消費者協会には関係する団体との橋渡しをお願いできればと考えています。

<吉田委員長>

ありがとうございました。食品ロス削減に向けて、これまで以上にPRして活動を広めていただくようお願いいたします。では、このような計画で市に進めていただくということでお願い

します。

最後にその他を事務局よりお願いします。

### (3) その他 ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会の委員改選について

#### <事務局>

本検討委員会は令和元年度から今回まで多くの課題に対して検討を続けてきました。その結果として、多くの項目で改善を図ることができたと感じています。特にごみ処理手数料の改定や収集地区の再編、プラスチック製容器包装の分別収集の是非など大きな課題も解決することができました。一方で、ごみの減量やごみステーションの集約、食品ロス削減など引き続き検討の必要な項目もあります。

この検討委員会が設立してから3年が経ち、当初見込まれていた期間を大きく超えてしまっていますが、全ての課題解決には更なる期間がかかることが見込まれます。

そこで、ひとまずの大きな課題が解決した今、本検討委員会の委員改選を実施したいと考えています。委員の構成につきましては、基本的には現状と大きく変えない方針ではありますが、今後の課題に合わせて多少の変更を加えたいと考えています。

#### <吉田委員長>

ありがとうございました。事務局案のとおり、委員改選としてよろしいでしょうか。

(委員からの異議なし)

ありがとうございます。では、今回までで皆さんの任期終了ということになりました。ただ、再選も可能ですので、今後も引き続きご参加いただけるようであればぜひお願いしたいと考えています。

#### <部長挨拶>

本日はお忙しいところ、本検討委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございました。

また、今回も大変貴重なご意見をいただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。

本検討委員会につきましては、令和元年度から3年間にわたり計11回開催いたしまして、委員の皆様から数多くの貴重なご意見をいただきながら、本市のごみ処理・リサイクル事業のあり方について検討を進めて参りました。

この間の取り組みとしまして、昨年4月に開始したLINEによる自動分別案内や、本年5月に受付を開始した生ごみ処理機等の購入助成など、委員の皆様からのご提案により実施した取り組みがございます。また、本年4月には収集地区の再編やプラスチック製容器包装の分別収集の廃止、ごみ処理手数料の改定を実施したところですが、これらの取り組みに対しましても、それぞれのお立場から様々なご意見をいただいたことで、本市のごみ処理・リサイクル事業の効率化が図られ、課題解決に向かって着実に前進しているものと考えております。

ごみ処理・リサイクル事業につきましては、食品ロスの削減や事業系ごみの減量、ステーションの集約など、今後も継続して検討が必要な項目がございます。先ほど担当からご説明させていただきましたとおり、次回からは委員を改選して、引き続き検討を進めることとなりますことから、現在の委員の皆様による検討委員会は今回で最後となります。

委員の皆様におかれましては、これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後も市の廃棄物行政にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からのお礼のご挨拶とさせていただきますと思います。皆様、どうもありがとうございました。

#### <吉田委員長>

最後になりますので、簡単にお一人ずつ感想など一言お願いします。

#### <菊地委員>

この検討委員会に参加しまして、立場の違う方や色々な考え方があり、大変勉強になりました。我々は経済団体ですので、経済の立場から考えることが多いのですが、逆から見るとこう見えるのかと改めて感じました。この検討委員会に参加させていただいて本当によかったと思います。

#### <菊池委員>

普通の生活をしており、普段はこういう方々と話をする機会はありませんでしたので、非常に勉強になり良かったです。

#### <安部委員>

消費者協会の代表として参加させていただきました。大変勉強になりました。今後も様々なことで出来るかぎり貢献したいと思いますので、今後ご支援やお力添えをいただければと思います。行政の動きや考えについて、様々なことを学ばせていただきました。今後も更に市民のために良い形で進んでいくよう願っております。

#### <齋藤委員>

業者の立場として参加させていただき意見もさせていただきました。

行政改革の項目にごみ問題が上がり、このごみ処理・リサイクル事業のあり方検討委員会ができました。当時は負担の平準化と委託料の削減が主な課題となっていました。平準化は今年から始まりだいぶ進んできました。一番は待遇改善であり、収集日を変えることで、水曜日は燃やせるごみの収集車が1台も走らず第4週以降も走らない、社員が休みを取りやすい環境ができました。また、飛び石の連休も休みになったりと待遇改善に繋がりました。

今後はごみステーション集約について議論が続くと思いますが、特に軒先収集、中でも輪西と中央地区、幸町地区がすごく多くなっています。一方で中島、高砂地区は軒先がないです。元々、輪西や中央町は商店が多かったので仕方ない部分もありますが改善してもらいたいと思っています。

#### <鶴田委員>

初めて参加させていただきましたが、圧倒されてしまいました。大学生協では学生委員会による運営をしており、現在20名くらいの学生が参加していますので、フードドライブなどの勉強会から始めて若い人にも伝えたり貢献できたらと思います。今日だけでも大変勉強になりました。

#### <山内委員>

こういうところに携わっている我々に関心がありますが、広報が届いていない人や関心の無い人は悪い出し方をしていると思われれます。そのような方々にどのように手を差し伸べ、伝えていくのが重要だと考えます。

今年になってからごみ収集車が来るまで業者さんの負担について、本人たちはどう思っているのかなと考えていました。いろいろ勉強させていただきました。自分はルールを守っていますが、人に教えていくとなるとなかなか難しいですが、どうにか頑張りたいと思います。

#### <塩越委員>

この3年間で10項目もの改善がされてきたこともあり、自分でもネットを使用して調べたり、市から提出された資料を見ていましたが、把握できなかった部分についても、皆様のご意見を聞きながら自分でも少しは知識を入れていき、少しずつではありますが、食品ロスとか周りの方々に聞かれたら答えられるようになりました。今後も覚えたことを周りに伝えつつ、支持していきたいと思っています。

<森川副委員長>

皆さんありがとうございました。

町内会の代表として席につかせていただきまして、あり方とは何なのかと悩んでおりましたが、皆様方のご発言やご努力によりまして、一つのあり方の姿が見えたのが良かったと思います。私も町内会の代表として参加していますが、町内会の橋渡しはあまりできておらず、もう少し対応出来ていればと思います。

また、我々の努力もあったかもしれませんが、行政の皆様の努力には頭が下がる思いです。一生懸命やっているのに新聞にあんな書かれ方をされたり、投書欄に何度も批判的な心無い言葉が出てくることに、私も心を痛めておりました。町内会代表として反省もしておりますが、これからもあり方の検討に努めてまいります。

<吉田委員長>

すべての委員の皆さんに語っていただきました。

ごみ処理手数料の適正化、プラスチック製容器包装の分別収集廃止など、難しい話も多かったと思います。私自身が思ったことは、20年前のごみ処理手数料有料化の時は行政にすべてお任せでよかったが、今回はそれだけではなく様々な項目が付随してきていました。社会福祉の話とか、生活への影響など様々な視点から難しい議論が必要となりました。

プラスチック製容器包装の分別収集を廃止したのはコストが高いからとなりますが、これは全国的に珍しく、室蘭だけかなとも思います。それぞれの自治体によって状況が異なっており、デメリットもあればメリットもあり、それらを総合的に判断して選択しています。市のやり方を、妥協点を、考え方を一人一人の委員の意見を聞き、市民の意見をどのように取り入れるのか。

これから検討が必要となるごみステーションの集約、弱者対策と収集コストを下げるということについても、どこに妥協点を置くのか。全国の中でも高齢化と人口減少の高い室蘭市だから一番最初にやらなければいけません。どこの自治体も必ず突き当たることではあります。他の市の方に話をするときに、皆さんは10年後に同じことをやることになるだろうと、10年前に同じことをやっていたら違っていたかなと、他自治体もとても参考にしていると思っています。

まだまだ課題がいくつかあり、皆さんと妥協点を見つけつつ、次回以降も検討を続けなければいけません。今回で委員を離れる方もいると思いますが、人と人が繋がり、伝え合うことには非常にインパクトがあります。ぜひ、周りの方々にもお伝えていただいて室蘭市やごみについて興味を持っていただきたいと思います。この委員会は今後も課題解決に向けて進みますので、今後ともよろしくお願いします。

最後になりますが、市の担当者の方には資料の作成など、委員会のスムーズな進行ありがとうございました。最後に拍手で終わりにしたいと思います。